

平成28年 第10回教育委員会会議

1 日 時

平成28年9月14日（水）

開会 15時00分

閉会 15時25分

2 場 所

教育委員会室

3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、横山真紀委員、橋正徹委員、眞鍋知子委員

4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、脇田明義教育次長、竹中功教育次長、齋田正活教育次長、平畠敏彦教育次長兼教員指導力向上推進室長、小浦寛教育次長兼学校指導課長、池田誠庶務課長、杉中達夫教職員課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、徳田伸一スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第22号 平成29年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について
(原案可決)

議案第23号 石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正
について (原案可決)

6 報告案件

- ・ 第37回北信越国民体育大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

- ・ 開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

- ・ 質疑要旨

以下のとおり

議案第22号 平成29年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について
(小浦教育次長兼学校指導課長説明)

議案第22号「平成29年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員」につきまして、ご説明いたします。

1の提案理由は、平成29年度における石川県立学校第1学年入学者の募集定員を定める必要があるためでございます。

2の根拠法令については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条」でご

ざいます。

3の内容につきましては、2～4ページに示してございます。

では、2ページをご覧ください。はじめに、前年度（平成28年度）の経緯から説明いたします。右ページの参考(1)の「中学校卒業（予定）者数の動向」をご覧ください。太枠の左横にありますように、平成28年3月は、前年度に比べ67人の増という中学校卒業者の増加に対応する必要がありました。そのことから、県南・県央・県北のそれぞれの増減数などを踏まえ、(2)にありますように、全県の公立高等学校の募集定員は80人の増、学級数では2学級の増とし、具体的には(3)にありますように、県南地区では1学級の増、県央地区では2学級の増、県北地区では1学級の減としたところでもあります。

右ページの参考(1)の表に戻ります。太枠でお示した平成29年3月の中学校卒業予定者数は11,079人で、前年度より109人の減少が見込まれております。地区の内訳に示しましたように、県南・県央・県北のそれぞれにおいて増減数に幅があることを踏まえ、募集定員を策定する必要があります。

次に、左ページをご覧ください。このような経緯を踏まえ、平成29年度「公立全日制高等学校」の募集定員につきまして、ご説明いたします。

(1)には、「募集定員策定の基本的な考え方」を示してあります。

(2)の「募集定員及び学級数」についてであります。今ほども申し上げましたように、平成29年3月の中学校卒業者は11,079人で、平成28年3月に比べて109人の減少となりますので、平成29年度の募集定員は、全日制高等学校全体で80人減の8200人、学級数では、2学級減の205学級としたいと考えております。

学級数を増減する学校につきましては、地区ごとの生徒の増減、地域の実態・実情、生徒・保護者のニーズ等を踏まえ、検討したところでもあります。

(3)の「地区別学級数増減の予定学校」をご覧ください。まず、県南地区から説明します。県南地区においては、中学校卒業者は46人の増加が見込まれておりますが、私学や他地区への流出、また、平成28年度は35人の増加に対して1学級増としたことを考慮して、学級数の増減は行わないことといたします。

次に、県央地区においては、中学校卒業者は137人の減少が見込まれております。人数的には3学級規模の減少であります。県央地区における公私の募集定員の比率を考慮して2学級の減といたします。前年度に中学校卒業者が増加した白山・野々市地区および金沢市南部で中学校卒業予定者が減少することから、前年度に学級増とした野々市明倫、金沢錦丘の2校を、それぞれ1学級減といたします。

次に、県北地区においては、中学校卒業者は18人の減少が見込まれておりますが、地区により増減の差はあるものの若干名であることから、学級数の増減は行わないことといたします。

次に、左ページの下をご覧ください。2「定時制高等学校」、3「通信制高等学校」につきましては、それぞれ平成28年度入試と同数の募集定員といたします。

4「特別支援学校」につきましては、入学希望者の実態を十分勘案し、入学希望者全員を受け入れることができるように331人＋（専攻科）若干名の募集定員といたします。5「県立金沢錦丘中学校」につきましては、平成28年度入試と同数の募集定員といたします。

3～4ページには、学校別の募集学級数と募集定員をまとめてあります。前年度と比較して変更がある箇所は太線で囲んでありますので、参考にさせていただければと思います。

以上、ご審議をよろしくお願ひいたします。

【質疑】

(田中教育長)

今回は県央地区だけ 2 学級減とする対応としたいと思います。先ほども説明がありましたように、県央地区については、昨年増えた地域、いわゆる金沢南部と野々市・松任地区で今度は減る、同じ地域で減るという状況でございまして、去年、増加に伴って学級数を 1 学級ずつ増やした野々市明倫、金沢錦丘の 2 校を今回その地域が減るということで、元に戻すという形で 2 学級減とさせていただきたいと思ひます。

県南地域については、先ほど説明がありましたように、昨年 1 学級増もしていますので、公私比率等々を考えますと、今回は 46 人の増ですけれども触る必要はないかということなんです。

県北地域については、ごくわずかの減少ですので、今回は触る必要がないと判断しまして、全日制の高校については、このような形にさせていただきました。

(金田委員)

県南地区で 46 人増えているけれども、これは大聖寺地区なのか、それとも小松地区、あるいは寺井・川北地区あたりか、どの地区ですか。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

県南において増えている地区ですが、加賀市が増えています。

(田中教育長)

あとはもうわずかの増減です。

(金田委員)

大聖寺高校を含めた 3 校が少し足りるかなということか。

横の 30 年を見る必要はないけれども、30 年 3 月は大幅減になるのですね。

(田中教育長)

ご覧のように、30 年は大幅に減り、31 年はまた少し増加に転じるのですが、32 年はまた大幅に減るというデータがございまして、30 年の募集定員、32 年の募集定員、この 2 カ年にわたる大幅減を少し見通して、次回以降は、募集定員を詳細に検討していかなければいけないと思ひています。

(金田委員)

そうですね。これは今までなかったような数字ですね。

(田中教育長)

この 33 年以降も、ちょっと減り方が大きいことがまたあるものですから。

(田中教育長)

採決を行う。

(全委員)

異議なし。

議案第 23 号 石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正について

(小浦教育次長兼学校指導課長説明)

資料の 5 ページをお開きください。議案第 23 号「石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正について」お諮りするものでございます。

提案理由であります。 (1) 平成 29 年度における第 1 学年募集定員の策定により、高等学校の募集生徒数を変更する必要があること及び (2) 平成 29 年度における第 1 学年募集定員の策定により、特別支援学校の募集幼児・生徒数を変更する必要があるためでございます。今回提案の来年度の募集生徒数につきましては、今般定めた募集定員に基づいております。根拠法令につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 33 条であります。

改正案につきましては、9 ページから 15 ページにお示ししてございますが、改定案を一覧にまとめた 6 ページからの新旧対照表をご覧ください。表の右側が現行で、左側が改正案でございます。なお、太枠で囲ったところが変更箇所でございます。高等学校規則については以上でございます。

次に、8 ページの「石川県立特別支援学校規則」の新旧対照表をご覧ください。特別支援学校については、義務教育である小学部・中学部を除き、今般定めた募集定員に基づき、募集幼児・生徒数を変更いたします。変更となった部分を、太線で囲んでありますのでご覧ください。

以上が改正点でございます。よろしくご審議をお願いします。

【質疑】

質疑なし。

(田中教育長)

採決を行う。

(全委員)

異議なし。

報告事項 第 37 回北信越国民体育大会等における本県選手団の成績について
(徳田スポーツ健康課長説明)

資料の 16 ページをお開きください。第 37 回北信越国民体育大会等における本県選

手団の成績につきまして、ご報告いたします。

1「北信越国民体育大会」です。長野県内の11市3町2村、新潟県1市において、8月26日から28日を中心会期として、31競技が開催されました。このうち28競技で48の種別・種目が、岩手県で開催される「第71回国民体育大会」岩手国体の出場権を獲得いたしました。岩手国体で入賞の可能性が高い1位突破数、優勝数ですが、26でありました。今回の北信越国体の結果、岩手国体へは、北信越予選がなく、県単独で出場できる競技を含め、実施37競技のうち34競技に出場することとなりました。

次に、団体の優勝ですが、成年では、男子で軟式野球、女子でハンドボールやバレーボールなど計7種別、少年では、男子の水球や卓球、女子では、なぎなたや水泳のシンクロなど、計10種別が優勝しております。なお、個人優勝は記載のとおりでございます。

岩手国体の開催競技のうち水泳競技につきましては、既に今月4～11日までに開催されており、この後、10月1日に総合開会式が行われ、11日までに36競技が開催されます。残り2週間余りとなりましたが、県体育協会とともに競技団体を激励し、得点の獲得に努めてまいりたいと思います。

次のページをお開き願います。2「全国中学校体育大会」についてであります。8月17日から25日までの日程で、本県をはじめ北信越5県で開催され、本県より12競技に315名の中学生が出場しました。団体では、軟式野球競技で、かほく市立宇ノ気中学校が優勝、相撲競技で、津幡町立津幡南中学校、ハンドボール競技女子で、小松市立芦城中学校が準優勝しました。個人では、柔道競技男子90kg級で、白山市立北辰中学校の寺島選手が準優勝しました。その他の入賞につきましては、一覧表のとおりであります。団体と個人を合わせた全体の入賞数は23でありました。

以上で、説明を終わります。

【質疑】

(金田委員)

中学校が頑張っているということは、先が明るいということですね。

(橋正委員)

中学校の入賞者はずいぶん増えましたね。

(徳田スポーツ健康課長)

地元開催が4競技ありまして、団体、個人でその地元の入賞が13ということで、地元開催による県民の皆さんの応援が県勢入賞の後押しをしたものと考えております。

(橋正委員)

前回会議で、高校の入賞者数がちょっと減ったような記憶があって、東京オリンピックに向けてのスタートダッシュへ出遅れたかなと思ったのですが、中学校の成績を見ると、一生懸命頑張っているなど。

(田中教育長)

中学校はそうですし、少年が高校総体とかで若干苦戦していたので、国体の突破もちよっと心配はしていたのですが、ご覧のとおり、昨年とそんなに変わらず健闘したと思

っています。

- ・閉会宣言
田中教育長が閉会を告げる。